

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 82人

② 算数 82人

③ 理科 82人

5 留意事項

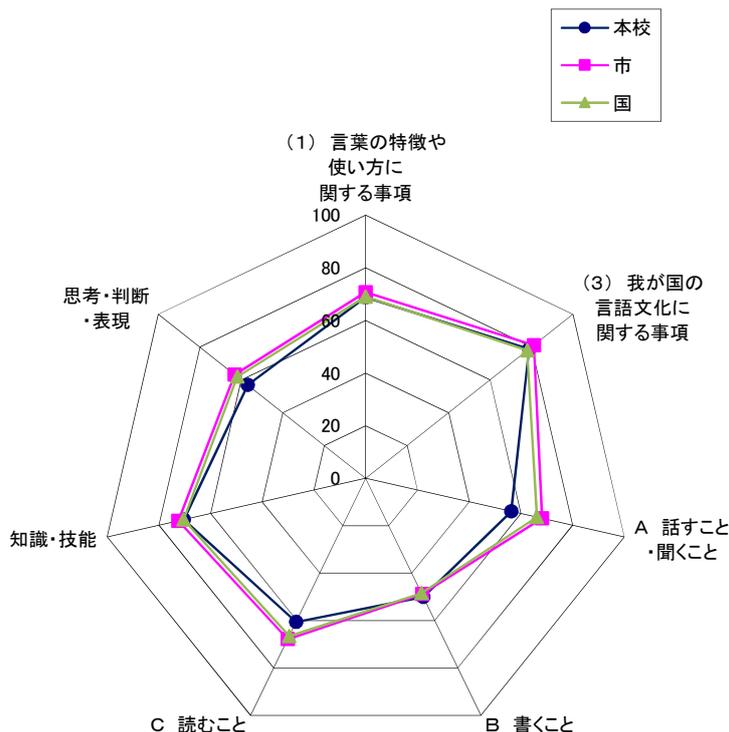
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	68.8	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.8	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	56.3	68.2	66.2
	B 書くこと	50.0	48.9	48.5
	C 読むこと	60.6	67.9	66.6
観点	知識・技能	70.4	72.5	70.5
	思考・判断・表現	56.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

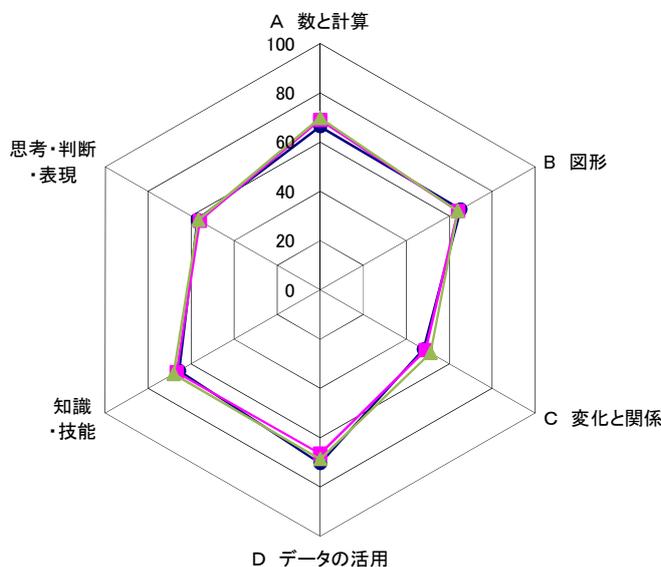
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、68.8%で、市の平均を1.9ポイント下回った。 ○漢字を文の中で正しく使うことはよくできている。 ●言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えるということに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、引き続き、漢字スキルや1人1台端末を活用した繰り返し学習を行った上で、既習した漢字を日頃から使う指導を続けていく。 ・相手の発言の内容を的確に捉えた上で、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを意識した会話ができるよう、話し合い活動などにおいて、助言、指導していく必要がある。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、78.8%で、市の平均を2.3ポイント下回った。 ●文を書く際に、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことについて課題が見られる。	・点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことや漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことが大切であることの指導を、書写以外でも様々な活動において続けていく必要がある。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、56.3%で、市の平均より11.9ポイント下回った。 ●必要なことを質問したり、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、中心を捉えられていない。 ●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題が見られる。	・日頃からペアやグループでのスピーチや話し合い活動を取り入れ、話し手の伝えたいことを考えたり、自分と比較したりしながら意識して聞く活動を行っていく。 ・学級活動などを通して、話し合い活動を積極的に進めていき、自分の立場を明確にしながら、相手の意見を汲み取り、まとめていく経験を積ませる。
B 書くこと	平均正答率は、50.0%で、市の平均より1.1ポイント上回った。 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることはできている。 ●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに関して課題が見られる。	・友達と考えを交流したり、友達のよい部分を伝えたりする活動が、よい結果に繋がったことから、今後も認め合う活動に力を入れていきたい。 ・振り返りで、自分の成長や友達から学んだことを書く活動を随時行っていく。 ・文章を書く活動において、自分の考えが明確に伝わるように文章全体の構成に着目して文章を整えていく活動を続けていく。
C 読むこと	平均正答率は、60.6%で、市の平均を7.3ポイント下回った。 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えられている。 ●登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることに関して課題が見られる。	・読書活動を推奨し、物語を読む経験を積ませる。 ・文章に印を付けるなどの活動を取り入れ、叙述に沿って登場人物の行動や気持ちを読み取れるよう指導を続けていく。 ・登場人物を関係図に整理する活動を取り入れ、相互関係を把握できるよう指導助言していく。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.3	69.0	69.8
	B 図形	65.3	64.1	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	48.1	49.0	51.3
	D データの活用	70.4	66.5	68.7
観点	知識・技能	65.6	66.8	68.2
	思考・判断・表現	57.1	56.1	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

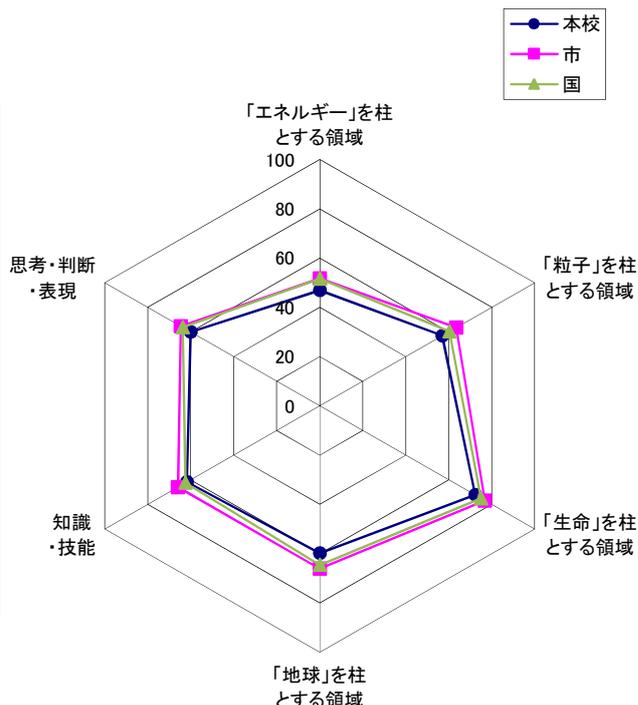
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は66.3%で、宇都宮市の平均と比較するとやや低くなっている。</p> <p>○計算をすることがよくできている。単純な四則計算に対する児童の理解度の高さが伺える。</p> <p>●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する際におおよその数を求めることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに、おおよその数を求める問いなど文章問題を多く取り入れて、やや複雑な問題や発展的な問題を解決する力も身に付けられるように、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。</p>
B 図形	<p>平均正答率は65.3%で、宇都宮市の平均と比較するとやや高くなっている。</p> <p>○長方形の向かい合う辺の長さを書くことができている。長方形の意味や性質、構成の仕方についての児童の理解度の高さが伺える。</p> <p>●正三角形の作図について問われる場面で、正三角形の構成の仕方及びそれに関する記述に対し課題が見られる。</p>	<p>・図形の作図をする際に作図方法の暗記だけになってしまわぬように、なぜこの方法で求められるのかなど話し合う学習を通して、図形の作図及び図形の構成について理解できるような指導をしていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は48.1%で、宇都宮市の平均と比較するとほぼ同じ値になっている。</p> <p>○百分率で表された割合を他の数字で表すことができている。百分率に関する基本的な理解度の高さが伺える。</p> <p>●百分率で表された数量の総数が変化した場合の割合に関して問われる場面で、数量が変わっても割合が変わらないことに関して課題が見られる。</p>	<p>・百分率の基本的な使い方や意味について理解できている児童が多いことから、その既存の知識をもとに応用的な問いを多く取り入れ、複雑な問題を解決する力を身に付けられるように、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は70.4%で、宇都宮市の平均と比較するとやや高くなっている。</p> <p>○分類整理されたデータをもとに目的に応じてデータの特徴を捉え考察することができている。データの特徴に対する理解度の高さが伺える。</p> <p>●グラフから割合が一番大きいものを選び取る問題で、円グラフから必要な情報を読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・円グラフの特徴などについての理解に課題が見られることから、円グラフの特徴について再度確認できるようにするとともに、その円グラフの特徴を生かすためにグループワークなどの話し合いの機会を多く設け、こういった場面で用いられいかなど円グラフの使い方に関しても、児童自身が考えて説明する力を育てるようにする。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	46.9	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	57.0	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	72.3	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	59.8	66.1	64.6
観点	知識・技能	61.8	65.9	62.5
	思考・判断・表現	60.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は46.9%で、宇都宮市の平均と比較するとやや低くなっている。</p> <p>○日光が直進することについて理解をしている。鏡を用いた実験や日々の生活の中で、しっかりと知識が身についたと考えられる。</p> <p>●鏡で跳ね返した日光の位置が変化することを確かめる実験においては、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことが難しく、課題が見られる。</p>	<p>・実験の結果から学んだことについて、理解できている部分が多いため、これからも実験を手順から考察まで丁寧に指導し、知識を定着させるようにする。</p> <p>・実験の方法に関して、やり方が正しいのかどうかを判断し、自分でやり方を考える部分に課題が残るため、「なぜその実験をするのか」や「予想」をしっかりと行い、どのように実験をすると予想を確かめられるのかと考えをもつことを毎回の実験にて指導していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は57.0%で、宇都宮市の平均と比較すると低くなっている。</p> <p>○メスシリンダーという器具について、理解をしている。実験を行う際に、どのような場面で使う器具なのかを確認しているためと考えられる。</p> <p>●凍った水溶液について、自然の事物・現象から得た情報を他者の気付きの視点で分析し、自分の考えを書くことに課題が見られる。</p>	<p>・自分の実験の結果を見て、考察を行うという形はよく行っている。しかし、友達の意見を見て自分の考えをもつことについて課題が残っているため、実験の結果を共有し、友達がなぜその考察をしたのかを考える指導をしていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は72.3%で、宇都宮市の平均と比較するとやや低くなっている。</p> <p>○自分の観察の記録と新たに追加された情報を基に問題のまとめを検討し、自分の言葉で記述することができている。普段の授業から、まとめ、考察という流れで自分の考えを書く活動を行っている成果と考えられる。</p> <p>●カブトムシの育ち方と主な食べ物の特徴について、提示された情報を複数の視点から分析することについては課題が見られる。</p>	<p>・まとめをしっかりと書けていたことから、今後も理科の学習において、予想、実験、結果、考察、まとめの流れを重視し、児童に自分の言葉でまとめられるように指導の充実を図る。</p> <p>・情報を複数の視点から分析することに課題が残っているため、友達の意見を参考にしたり、実験の際に、もし条件が違っていたらどうなるかと、自分と異なる意見を取り入れたりするなど指導の充実を図る。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は59.8%で、宇都宮市の平均と比較すると低くなっている。</p> <p>○冬の天気と気温の関係について、観察して得た結果をよく理解している。実体験を伴う活動でもあったため、理解している児童が多かった。</p> <p>●水が水蒸気になって空気中に含まれていることを理解できていない児童が多く見られた。</p>	<p>・実験を行い、水蒸気が冷えると水になることを実感させることと、冬の日に窓に結露が出てくることを想起させ指導していく。このように、実験と自分の体験を合わせて身近なものとして考えるよう指導の充実を図る。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問では、児童の肯定割合が76.8%で、全国平均を8.7ポイント上回る。これは、学校生活での児童との信頼関係の構築のため、休み時間に話を聞く時間を確保したり、教育相談などで受けた相談に対して、児童の目線に立って受け入れる体制を学校全体で整えてきた結果と考えられる。

今後も、児童との信頼関係を維持しながら必要に応じて声を掛けるなど、相談しやすい雰囲気づくりを続けていきたい。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問では、週1回以上と答えた児童の肯定割合が92.7%で、全国平均を9.5ポイント上回っている。これは、総合的な学習の時間の調べ学習やAIDリルの活用等を中心として、児童が自主的に活用する時間を確保したことが理由と考えられる。

今後は、児童の学習の習熟や調べ学習だけでなく、自分の考えをまとめた発表し合ったりする活動での利用の機会を増やすとともに、デジタルシティズンシップに基づいた活用について指導していきたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問では、児童の肯定割合が81.7%で、全国平均を8.2ポイント上回っている。これは、児童が学級をよりよくするための話し合いを自主的かつ積極的に進めてきた成果と考えられる。

今後は、学級会での話し合い活動を効果的に活用しながら、学級をよりよくするだけでなく、自分が努力すべきことへの意識を高めることで、集団の質を向上させられるよう指導していきたい。

●「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問では、児童の肯定割合が57.3%で、全国平均を12ポイント下回り、「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問では、児童の肯定割合が56%で、全国平均を11.9ポイント下回っている。

これからは、授業中を含めた学校生活全般の中で、算数や理科の学習内容が活用できるよう場面を意識できるように声を掛けるなど、児童の意識が高まるような指導をしていきたい。

●「学校の授業以外に、普段1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問で、30分以上読書している、と答えた割合が23.2%と、全国平均を13.2ポイント下回っている。また、全く読書をしない、と答えた割合は、35.4%にのぼる。

読書が習慣化していない児童がいることや、学校図書室、地域の図書館の利用に個人差がみられることから、今後は、図書室の利用や校内の必読図書読破の推奨、家庭でのインターネット等でのデジタル書籍の活用やなど通して、本や文章に親しむ環境を整えていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を定着させるための取組	・一人一人が考えたことを書いたり表現したりする力の育成を図る。 ・授業の中で必ず「めあて・まとめ・ふりかえり」を行い、授業の焦点化を図る。	・課題の解決に向けて自分で考え、自分が解決することができている児童が約7割いるが、自分の考えを書いたり工夫して表現したりしている児童は6割弱になる。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・話し合いや1人1台端末を活用し、多角的な見方ができるようにする。 ・ふり返しを通して集団の学びを個の学びに返し、この学習を個の学習を深められるようにする。	・友達と協力し合うことは楽しいと感じている児童は9割強いるが、自分とは異なる意見に対して考えることに苦手意識をもっている児童が約3割いる。また、9割以上の児童が、1人1台端末が学習の役に立っていると実感している。
・学ぶ意欲をもち続けるための取組	・互いに認め励まし合い、学びに向かう学級集団づくりを行う。 ・家庭学習等では、個人に適した学習を行いながら自己調整力を育む。	・家庭学習の時間は1～2時間が最も多く、8割の児童が30分以上行っているが、3割の児童が計画性をもって行っておらず、計画的に行っている児童は3割未満である。読書は30分以上が3割未満である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査から、市や県の平均よりも全体的に低い傾向が見られた。 ・国語の「話す・聞く・読む」が低い傾向が見られた。	・基礎基本を定着させるための取組。 ・話す力・聞く力・読む力を身につけさせる取組。	・朝の学習の時間や各単元の内容を復習する時間に、プリントやAIDリルを活用し、基礎基本の定着を図る。また、学ぶことを既習の学習事項と結び付けるなど、知識や技能を応用させ、考える場を設けるようにする。 ・話し合いや振り返りを通して、多角的な見方や集団の学びを自分に返す学びを繰り返す、話す力・聞く力を身につけさせる。 ・読書を奨励し、読む力を身につけさせる。